

教育:ゴンドリン村(Gondrin)に小学校来る

テンコドゴ(Tenkodogo)市部ゴンドリン村について公立小学校がやってきた。社会施設として小学校が建設され、2018年3月10日土曜日に落成した。

新しい小学校は3教室構成となっており、各教室には長椅子・長机、教師卓、収納棚、物入れなどが設置されている。日本の非営利団体「サン・ワールド・ヴィジョン」の資金援助により建設され、一本の井戸と3扉のトイレも設置された。この村にとって小学校を持つという長年の悲願は足裏に刺さった刺のようなものだったと、ゴンドリン村のナーバ・タンガ(Naaba Tanga)がJBFA責任者に感謝の意を伝えた。小学校の建設によって、村の発展、教育および村人たちの生活水準の向上が期待できると述べた。

テンコドゴ市部のゴンドリン村の人々にとって、自分たちの子供が他所の小学校まで、毎日、長い通学路を往復しなければならなかった状況がようやく解消され、子供たちに本来の教育環境を整えることができたことに感謝の意が表された。2018年3月10日土曜日の公立小学校開校によってこうした長年の望みが叶うこととなった。ゴンドリン村の人々を代表してモイズ・ウビダ(Moise Oubda)が以上のように謝辞を述べた。前駐日ブルキナファソ大使フランソワ・ウビダ(Francois Oubida)が、今回の小学校建設がたった3か月で実現したのはまずひとえにJBFAの支援のおかげであり、それに加えて、このプロジェクトに共感した村人たちの小学校受入に関する積極的な協力があったからだと指摘した。さらに、村人が強く望んでいた太陽光発電による小学校への給電システムの建設・導入もまもなく実現することが言明された。開校式の主賓であり、中東部州の初等教育および初等教育後教育課程の教育部長を務めるルシアン・ズレ(Lucien Zoure)は、無知への闘いに資金提供してくれた日本からの協力に言及した。ズレ氏は新しく建設された社会施設としての小学校を利用することとなる人々に、ゴンドリン村の将来の大きな幸せにつながるさらなる人材開発のために、村と行政が一体となって取り組むべきことの重要性を訴えた。彼は、テンコ2にある基礎教育(CCEB)区域の責任者に対して、順次、段階的に新しい教室の建設・開校を行うことによって、州レベルでの学校教育施設運営の正常化を促すよう、すでに指示したことを明らかにした。彼は、JBFAを介して、日本の非営利団体「サン・ワールド・ヴィジョン」が、今回、政府の政策に沿ってゴンドリンに建設した小学校の開校を讃え、この支援によって、この国を率いることとなる人材などが将来多数輩出されることとなろうと結んだ。JBFA理事長のリマサ・マツヤマは、この小学校卒業生の中から、閣僚、議員、医者、技術者などが輩出されることを期待していると述べた。彼は、ゴンドリン村の人々に向かって、国の発展が村人たちの息子、娘たちの教育にかかっているので、彼らの子供たち全員をこの小学校に入学させるよう訴えた。

リマサ・マツヤマにとって、今回実際に証明したとおり、村人たちをその気にさせることが彼らの子供たちの教育環境の整備にとって最も大切なことだという彼の考えを述べた。

翻訳者:中野幸紀